各市町村社会教育委員の活動報告



岡山県社会教育委員連絡協議会

令和8年3月

目次

１．社会教育委員の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２．参考になる文献・リンク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
３．第４７回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会・第４８回
　　中国・四国地区社会教育研究大会香川大会について・・・・ 4
４．各市町村社会教育委員の活動報告
　　① 岡山市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　　② 倉敷市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　　③ 津山市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　　④ 玉野市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
　　⑤ 笠岡市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
　　⑥ 井原市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　　⑦ 総社市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　　⑧ 高梁市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　　⑨ 新見市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　　⑩ 備前市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　　⑪ 瀬戸内市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　　⑫ 赤磐市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　　⑬ 真庭市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　　⑭ 美作市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
　　⑮ 浅口市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　　⑯ 和気町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　　⑰ 早島町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　　⑱ 里庄町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
　　⑲ 矢掛町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
　　⑳ 新庄村　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
　　㉑ 鏡野町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
　　㉒ 勝央町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
　　㉓ 奈義町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
　　㉔ 西粟倉村　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
　　㉕ 久米南町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
　　㉖ 美咲町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
　　㉗ 吉備中央町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

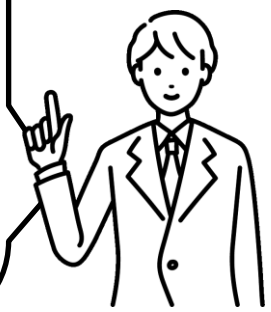
※本報告は、各市町村における「活動成果報告書」を基に作成しておりますが、体裁の都合上、一部編集を行っております。

１．社会教育委員の役割

その１　自分のまちの社会教育の実情を知り、社会教育に関する諸計画を立案すること

自分のまちの社会教育の現状について積極的に把握します。そして、地域住民と行政の間に立って、住民の声を行政に反映させるための提案をします。

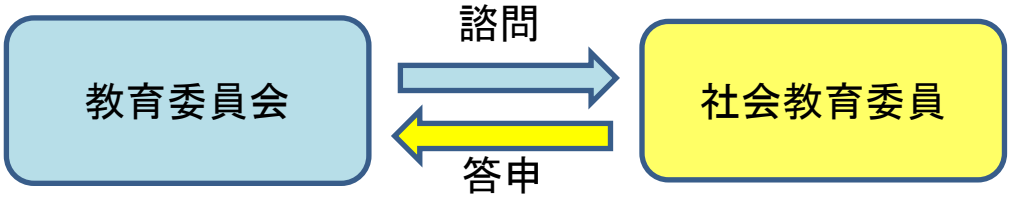
なお、社会教育委員は個人として任命される（独任制）ので、会議を通じて意見を述べることの他に、一人一人が独立した立場で職務や活動を行うことができます。



その２　社会教育委員の会議としての職務①　教育委員会への答申・意見を述べること

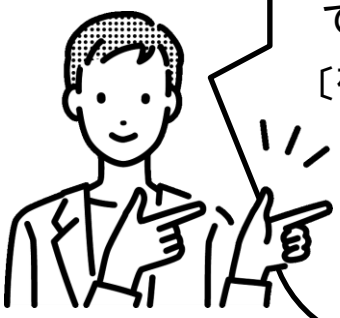
教育委員会で扱われる社会教育事案のうち、協議が必要であると判断するものについては、社会教育委員の会議に対して教育委員会が諮問を行います。

それに対して、社会教育委員の会議が開かれ、委員の意見を集約する形でまとめ、「答申」という形で意見を述べます。





その３　社会教育委員の会議としての職務②
必要に応じて研究調査や視察を行うこと



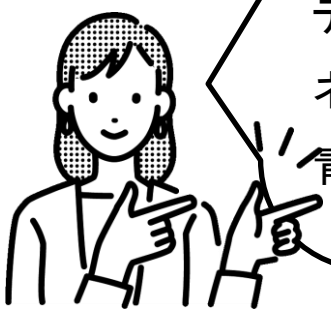
１ページの職務を行うために必要な研究調査や視察等を行うことができます。

研究調査によって得られたデータをもとに課題を洗い出し、その解決方法を探り、意見としてまとめていくことで、より実態を踏まえた提案につながります。

〔研究調査の例〕

・さまざまな機関・団体が行う社会教育事業の視察
・先進的な取組を行っている社会教育施設等の視察
・社会教育に関する地域住民の意識調査　　など

その４　青少年教育に関する助言や指導を行うこと



市町村教育委員会から委嘱を受けた青少年の体験活動における指導、青少年への指導法の研修などを行うことが可能です。

社会教育委員が、自然体験活動、地域活動、ボランティア活動等における指導者やボランティアをコーディネートしたり、行政と地域住民をつないだりすることで、青少年の体験活動を充実させることができます。

【社会教育法】第17条 （社会教育委員の職務）

１ 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

1）社会教育に関する諸計画を立案すること。

2）定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を述べること。

3）前2号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。

２ 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

３ 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

【参考資料・参考文献】

・「改訂版　社会教育委員のためのＱ＆Ａ　―関係法規から読み解く―」
（一般社団法人全国社会教育委員連合）

・社会教育委員の手引き〔基礎編〕
（平成30年３月　鳥取県社会教育委員連絡協議会　鳥取県教育委員会）

２．参考になる文献・リンク

・「改訂版　社会教育委員のためのＱ＆Ａ　―関係法規から読み解く―」
（一般社団法人全国社会教育委員連合）

・一般社団法人全国社会教育委員連合ホームページ
（研修案内・調査研究などの情報が掲載されています。）
http://www.shakyoren.or.jp/index.html

・「子どもたちの夢を育む生涯学習の推進方策について（答申）」
（令和４年６月　岡山県生涯学習審議会及び岡山県社会教育委員の会議）
https://www.pref.okayama.jp/site/16/detail-58073.html

３．　第47回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会報告

令和７年11月20日（木）～21日（金）、「みんながしあわせを感じる、持続可能な社会の実現に向けて」を研究主題として、標記の大会が開催されました。中国・四国地区のさまざまな実践の発表や交流が行われました。
第３分科会「家庭教育支援」では、次の事例発表が行われました。

１　香川県三豊市　家庭教育支援チーム@みとすた
　公民館の家庭教育支援の一環として、「みとよ kids スタジオ」を立ち上げ、市内７つの公民館と協力して親子運動遊びを実施し、その活動をとおして子どもの頃から気軽に公民館を利用するという意識の醸成や、違う地域の子どもたちとの交流、また、保護者同士のつながる場の提供等などの具体的な支援を行っている。

２　山口県光市　あさなえ学園家庭教育支援チーム　あさらぶりん
　学校・家庭・地域のつながりを深め、小～中学校までの９年間、しゃべり場や昼休みサロン等で親子に関ることで、子どもだけでなく保護者の相談窓口になったり支援を受けていた親がサポーターとして活動を始めたり、地域全体で見守り支援を行っている。



　また、上記の事例発表にあたり、本県のノートルダム清心女子大学福原史子准教授が助言者として登壇されました。



お知らせ

第48回中国・四国地区社会教育研究大会香川大会

期　日　令和8年11月19日（木）～20日（金）

会　場　レグザムホール及びサンポート高松



大会スローガン　社会教育がひらく「ふるさと共育」の未来

４．各市町村社会教育委員の活動報告

岡山市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	３回
	３名	５名	４名	６名		１８名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
◎	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
〇	その他（生涯学習推進に関する助言）		

◇活動のテーマ・重点

～R7.9 家庭の教育力向上に向けた取組の進め方/R7.10～これからの岡山市の生涯学習・社会教育について

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

(R7.10～)持続可能な社会の発展に向けて学び続ける人材を育てるため、生涯学習・社会教育に関する市民の関心を高め、障害の有無や年齢、文化的・言語的背景、家庭環境などに関わらず、誰もが生き生きとした人生を享受することができる共生社会の実現を目指し、自分の生涯学習・社会教育について意識できるきっかけを持つことができるよう市民への周知を図るため、これからの岡山市の生涯学習・社会教育の在り方を考える上で必要な要点を、第４期岡山市教育振興基本計画（素案）の柱、施策の方向性に沿って考えることとした。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　第６回社会教育委員会議を開催（７月）　　※会議の回数は、任期開始からの通算回数

（１）「家庭の教育力向上に向けた取組の進め方」の事業改善についてまとめ

（２）公民館事業令和６年度事業報告、公民館基本方針中間評価について委員から意見聴取

２　第１回社会教育委員会議を開催（１２月）

（１）今後の審議テーマについて、事務局から提案し、委員の議論の上「これからの岡山市の生涯学習・社会教育について」に決定

（２）岡山市立公民館の運営・事業（基本方針中間評価（案)、令和７年度岡山市立公民館運営・事業方針（案)）について委員から意見聴取

３　第２回社会教育委員会議を開催（３月）※予定

（１）令和７年度生涯学習関連事業及び社会教育関係団体への補助金交付について説明

（２）これからの岡山市の生涯学習・社会教育について、必要な要点を、まずは①多様な教育ニーズを踏まえた支援の充実の視点から検討する。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

社会教育委員会議において改善した家庭向けリーフレットについて、さらに理解を深めるための講演会の開催や、家庭教育支援フェアの開催場所や、家庭教育アドバイザー派遣の実施方法について改善することができた。

〈来年度の方向性〉

これからの岡山市の生涯学習・社会教育の在り方を考える上で必要な要点を、第４期岡山市教育振基本計画（素案）の柱、施策の方向性のうち３つの視点に沿って考えていく。

倉敷市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	３名	７名	２名	３名		１５名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
〇	調査研究・視察	◎	青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇倉敷市の社会教育関連事業について理解を深める

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

社会教育関連事業に関し社会教育委員が理解を深めることで、様々な立場から忌憚のない意見・助言をいただき、事業運営・改善に活かすため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　第１回倉敷市社会教育委員会議の開催（７月）

「倉敷市教育振興基本計画」に基づく、社会教育関連の「主要事業」について、令和６年度の事業報告及び令和７年度の事業計画に対し、意見を述べた。

また、令和７年度社会教育団体への補助金交付について審査を行った。

会議開催後、「倉敷芸術科学大学のもつ研究シーズと地域連携の活動事例について」と題して、倉敷芸術科学大学　副学長である馬場委員による事例紹介を実施した。

２　第２回倉敷市社会教育委員会議の開催（１月）

「倉敷市教育振興基本計画」に基づく、社会教育関連の「主要事業」について、令和７年度の取組状況に対し、意見を述べた。

また、倉敷市の家庭教育支援事業を活用している家庭教育関係者２名の活動紹介を実施し、さらに事業について事務局から説明した後、現状と課題について全体で協議した。

３　成果と課題・来年度の方向性

引き続き、会議の開催を通じて、市の社会教育施策に対しての意見交換や提言を行う。
また、今後も、事業や施設の概要説明や現場視察を取り入れながら意見交換の場としたい。

津山市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	１名	６名	１名	２名		１０名	任　期	２年

【社会教育委員として実施した活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

〇	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
◎	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇次世代につなげる　～今こそ、子ども支援～

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

令和６年度からコミュニティ・スクールが市内全小・中学校に導入され、地域の果たす役割がより一層重要となっているが、次世代にどうつなげていくかが課題となっている。次世代を担う子どもたちの育成に向け、市内や近隣市町村で行われている取組について理解を深める必要がある。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　第１回会議（５月）
　社会教育関係課から昨年度の主な事業の実施報告
　今年度の事業計画の説明、補助金審査

２　美咲町生涯学習センターの視察・委員交流会（１月）
　施設見学ののち、美咲町社会教育委員との交流会を実施

３　第２会議（２月）
　社会教育関係課から今年度の主な事業の実施報告



３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉
・昨年度実施した市内施設の視察や取組についての研修や、委員が普段行っている活動を踏まえ、社会教育関係事業について積極的なご意見をいただくことができた。
・美咲町社会教育委員との交流会を行い、各市町が抱える課題について話し合うことができた。初めての取組であったが、「顔のわかる関係」となり、つながりが生まれた。

〈来年度の方向性〉
・今年度実施できなかった教育委員との懇談会を実施する。テーマについては、社会教育委員の会議で検討する。
・社会教育事業の推進に役立てるため、社会教育施設や優れた取組の視察研修を継続して実施する。

玉野市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	２名	３名		１名	３名	９名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
◎	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
〇	その他（　他の会議との合同開催の可能性を検討　）		

◇活動のテーマ・重点

〇玉野市の社会教育関連事業について理解を深める

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

社会教育の諸計画の立案に向け、本市の社会教育関連事業全体を把握するとともに、その現状について共通理解を図るため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

〔全体としての活動〕

１　会議の開催
- 玉野市社会教育委員会議（８月）
- 玉野市トップアーティスト・アスリート招へい補助事業審査会（８月）
- 第２回たまのっ子育成支援委員会（おかやま子ども応援事業）（２月）

２　放課後子ども教室の視察
- 放課後子ども教室（子ども楽級）１０楽級（１０～１２月）
- 放課後子ども教室（おさらい会）１１小学校（１１月～１月）

３　研修会への参加、情報共有

〔個人としての活動〕

１　芸術文化体験会等へ参加【随時】　　２　ＰＴＡ活動へ参加【随時】
３　スポーツ振興に関わる活動へ参加【随時】　４　文化振興に関わる活動へ参加【随時】
５　人権教育研修会へ参加【随時】

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

社会教育委員会議では、社会教育委員の役割や本市の社会教育関連事業の計画について理解することができた。また、視察を通して事業をより深く理解する機会となった。【個人としての活動】１～５への委員の参加が例年より増え、個々の活動の幅が広がってきているように感じる。今年度も会議において、各事業について意見や提言を行うことはできたが、諸計画の立案については、実現には至らなかった。

〈来年度の方向性〉

今後も社会教育委員同士が交流する機会を意図的に設けていきたい。会議や視察に加え、研修会や上記の個人活動へ積極的な参加をしていきたい。また、他の会議との合同開催を検討し、両分野を連携・一体的に推進し、より効果的な事業を展開するために、包括的で効果的な会議体の体制構築を図りたい。

笠岡市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	１名	３名	１名	１名	３名	９名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

〇	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
	調査研究・視察	〇	青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇社会教育・生涯学習事業等の企画・立案・助言
〇地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

当市では令和５年度から小中一貫教育が本格実施となったものの、地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの枠組みが異なるなど、引き続き一体的な推進に向けた取組が必要であるため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　第１回笠岡市社会教育委員会の開催（６月）
２　第２回笠岡市社会教育委員会の開催（３月）※予定

社会教育委員会において、社会教育関係事業計画や公民館、文化、人権教育、スポーツ等の各分野の取組について説明を受け、現状や課題について協議を行った。また、社会教育委員からは、文化事業や部活動の地域展開、社会教育の役割等について意見が出され、今後の取組の参考とした。さらに、各委員が成人式や生涯学習フェスティバル等の実行委員として参画し、企画運営の充実に寄与した。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

社会教育関係事業の内容や現状について共通理解を深めるとともに、委員からは事業の整理状況や工夫した取組を評価する意見が示された。また、部活動の地域展開や社会教育の役割など、今後の施策検討に資する多様な視点が共有され、次期計画を見据えた基礎的整理を行うことができた。

〈来年度の方向性〉

地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進などについては、さらなる取組の充実に向け、引き続き検討を進めていく必要がある。来年度は、社会教育施設や地域活動の状況を踏まえながら、地域とともに進める学びや生涯学習環境の充実に向けた方向性について、継続的に整理・共有を図る。

井原市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	１名	６名		７名		１４名	任　期	２年

【社会教育委員として実施した活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
〇	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
〇	その他（　生涯学習推進に関する助言　）		

◇活動のテーマ・重点

〇生涯学習関連事業について理解を深める

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

生涯学習事業に対し、様々な立場から意見や助言をいただき、今後の事業の参考とするため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　社会教育委員の会の開催（６月、３月）

教育委員会の令和６年度の事業報告と令和７年度の「教育行政重点施策」及び事業計画の説明を行い事業についての意見等を伺った。

２　第４７回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会への参加

委員２名の参加

３　「第４４回生涯学習の集い　まなびフェスタ」への参加

令和８年１月２５日（日）開催の「まなびフェスタ」へ参加し、生涯学習の各種教室の発表等の体験と行事への意見等を伺った。

４　「“夢＆志”未来イロドリ交縁会」への参加

令和８年３月８日（日）開催の市の「ひとづくり」事業の発表会の視察を行った。

３　成果と課題・来年度の方向性

事業への参加などをもとに生涯学習事業等に助言を行う。

引き続き市のひとづくり推進事業に関わり、人材育成の状況を把握する。

総社市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	１名	４名	１名	２名		８名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

◎	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
〇	調査研究・視察	〇	青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇生涯学習のまちづくりの推進

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

社会教育委員として各事業の計画や実績は、会議での説明を通じて理解しているが、参加している様々な世代の市民がどういう思いをもっているのか、公民館等の社会教育施設での事業についてより深く知る機会をもつことが生涯学習のまちづくり推進の一役を果たすものと考えるため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　第１回社会教育委員の会議の開催（８月）

社会教育事業，スポーツの振興，学校部活動の地域移行等

２　第２回社会教育委員の会議の開催（３月）

社会教育事業，地域学校協働活動の推進等（予定）

３　社会教育関係事業への積極的参加

社会教育関係事業で実施するイベント等へ参加し、現場の雰囲気や参加者の様子を感じる。

（そうじゃわくわくフェスティバル、総社市二十歳の集い　等）

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

社会教育関係事業の現状を把握することで，社会教育の担う一面を感じることができた。

実際に肌で感じることで，多様なニーズに対応するための方法について考えることができ、今後の社会教育関係事業の在り方について意識を持つことができた。

〈来年度の方向性〉

昨年度・今年度と同じテーマで取り組んだ。今後，社会教育の果たすべき役割を再度とらえ直し、社会教育関係事業が持続可能なものとして，どのように描いていくかを協議していく。

高梁市社会教育委員の会議

【基本情報】

	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
委員数	２名	７名				９名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
〇	調査研究・視察	◎	青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇社会教育事業についての助言および部活動の地域展開についての意見交換

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

・急速に進む少子高齢化などの社会問題を踏まえて、子どもを核とした多世代のネットワークを構築し、誰もが主体的に参画できる社会教育事業を行うため、社会教育委員から意見を聞き、事業運営に活かす。
・令和８年度から部活動の地域展開を開始するにあたり、部活動に関する今後の展開について委員に意見をいただき、地域展開をきっかけとした社会教育の推進を図るため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

〇高梁市社会教育委員の会議の開催（８月・１０月）

・社会教育委員会議による提言の活用について（８月）
昨年度作成した提言を活用して実施した研修会の報告を事務局から行った後、若者を中心とした活動への支援や提言の活用方法について意見交換を行った。

・令和８年度の社会教育事業について（１０月）
来年度の主要事業について事務局から説明を行った後、事業内容への提案等意見交換を行った。

・部活動の地域展開について（８月・１０月）
中学生の部活動を地域へ展開していくことにあたり、市の方針や受入団体について事務局から説明を行った後、今後の動きについての質疑応答や部活動と関連して子どもたちの放課後の過ごし方や既存の社会教育団体の活動の活性化について、意見交換を行った。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

教育委員会への提言がどのように活用されているか社会教育委員に報告することが出来、今後の活用やテーマとしている若者を中心とした地域での活動について意見交換をすることが出来た。

今年度は事務局からの説明を受けて意見交換を行う形式が多かったので、委員同士でグループワーク等行い、協力して課題解決に向かう取り組みが少なかったのが課題として挙げられる。

〈来年度の方向性〉

地域学校協働活動や部活動の地域展開など市の社会教育事業について引き続き意見をいただく。

新見市社会教育委員の会議

【基本情報】

	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	４回
委員数		５名				５名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
◎	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
〇	その他（　二十歳へのメッセージ作成、子ども応援事業運営委員会への参加　）		

◇活動のテーマ・重点

〇社会教育委員の活動の場の充実

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

本市の社会教育の現状や課題を把握し、今後の取組の検討に生かすため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　**社会教育委員の会議の開催**（５月、８月、１２月、３月）
　市生涯学習事業の説明、社会教育委員の活動について他

２　**各研修会等への参加**　５月・６月：岡山市、１０月：オンライン、１１月：山口大会

３　**哲西中学校区総合発表会の視察**　地区内３小中学校の総合的な学習の取組に関する発表会を視察し、地域課題に対する児童生徒の取組について把握した。





←合同発表会

→メッセージ



４　**二十歳へのメッセージ**
　１月２日開催の「二十歳の集い」において、社会教育委員からのメッセージカードを配布した。

５　**家庭教育の推進**　「新見市子ども応援事業運営委員会」に参加し、地域学校協働活動や放課後子ども教室等の取組状況について意見交換を行った。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

委員の改選により新たな体制となり、スポーツ分野や文化分野など多様な分野の委員が加わったことで、社会教育委員の会議では様々な意見を聞くことができた。活動面では、これまでの取組を継続しつつ、地域や学校等に関わる機会を通じて現状把握や意見交換を行うなど、活動の幅を広げることができた。一方で、社会教育委員の役割や活動については、十分な周知には至っていない状況である。

〈来年度の方向性〉

新体制となり２年目となるため、これまでの活動を継続しつつ活動内容の充実を図り、社会教育の推進につなげていく。

備前市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	１名	５名	１名	１名		８名	任　期	２年

【社会教育委員として実施した活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
〇	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇市内の社会教育活動に積極的に参加しよう

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

市内の社会教育事業を把握するとともに、よりよい社会教育事業に向けて助言等行うため

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

【以下の講座・活動に参加・見学】

・青少年健全育成大会（１１月）
・子育て懇談会（８月）
・人権セミナー（６月～１２月・毎月１回）
・人権視察研修（１２月）
・備前市中学生だっぴ（８月、１１月、１２月、計３回）
・備前まなび塾＋土曜日・長期休業講座（６月～２月・年間２５回程度）
・備前まなび塾＋体験講座（６月～３月・年間２０回程度）
・地域学校協働活動（４月～３月・９本部１１学校）
・家庭教育情報紙「ときめきナビ」編集会議（４月～３月・年間８回）
・公民館講座（随時）
・読書祭り（２月）

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

成果としては、社会教育委員が市内の社会教育事業に参加・視察することで、現場における創意工夫や関係団体との連携状況を把握するとともに、地域の実情に即した課題認識を深めることができた。

一方、担い手の高齢化や人材確保の難しさなどの事業運営に関わる課題も認められた。

〈来年度の方向性〉

視察で得た知見を踏まえ、事業の目的及び成果の明確化を図る。そのうえで会議等においてフィードバックを行い、多様な世代の参加促進及び担い手の育成に資する方策へと改善進める。あわせて実情に即した助言及び提言となるよう今後も継続的に現場把握に努めていく。

瀬戸内市社会教育委員の会議

【基本情報】

	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
委員数	２名	６名		１名		９名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に○を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
○	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

○瀬戸内市の社会教育施策の研究

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

瀬戸内市の社会教育事業を研究し、瀬戸内市の社会教育行政に助言等を行うため

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

○第１回瀬戸内市社会教育委員会議（８月：瀬戸内市役所）

１　社会教育関係団体への補助金について

本年度、市教委から補助金を交付している社会教育関係団体について、活動内容等の説明があり、委員による質疑あった。



２　令和７年度社会教育関連事業について

市教委から瀬戸内市における「おかやま子ども応援事業」、青少年健全育成推進事業、女子野球タウン事業に関する説明があり、委員の多くは普段それぞれの事業に携わっているため、積極的な意見交換がなされた。



３　部活動の地域移行について

会議時点で市教委が策定を進めていた「瀬戸内市における中学校部活動の地域移行基本方針」についての概要説明があった。近年、各委員も経過に注目している施策であることから、熱心に市教委の説明に耳を傾けていた。

※第２回目は、令和８年３月上旬に開催予定で調整中。改修工事を実施した瀬戸内市中央公民館の視察も予定している。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

それぞれの議題に対し、委員それぞれの経験等を踏まえて前向きな意見や質問がなされた。

〈来年度の方向性〉

委員の任期が今年度で終了することから新たに委嘱される委員によって引き続き、市の社会教育行政の現況の把握に努め、研究を進めたい。

赤磐市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	３回
			２名	８名		１０名	任　期	２年

【社会教育委員として実施した活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
◎	その他（赤磐市文化振興ビジョン検討委員会、赤磐市人権教育推進委員会・各種研修への参加）		

◇活動のテーマ・重点

〇地域連携による持続可能な社会教育の推進

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

少子高齢化に伴う地域コミュニティの希薄化と、社会教育事業の担い手不足が課題となっているため、社会教育施設が各地域の特性を活かしどのように機能すべきか調査、研究する。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　第１回社会教育委員の会議の開催（５月）
　事業評価・計画
２　第１回備前地区社会教育委員連絡協議会研修会へ参加（５月）
　講義・ワークショップ「社会教育委員の活動の活性化に向けて」
３　第１回岡山県社会教育委員連絡協議会研修会へ参加（６月）
　講演「社会教育委員が果たすべき役割と可能性」
４　第２回岡山県社会教育委員連絡協議会研修会へ参加（１０月）
　講演「障害者の生涯学習と地域共生社会の実現」＊オンライン参加
５　第２回社会教育委員の会議の開催（９月）
　講演「赤磐市における中学校部活動地域連携の取り組みについて」
６　第２回備前地区社会教育委員連絡協議会研修会へ参加（１０月）＊赤磐市開催
　講演「ようこそ永瀬清子の里へ」「ホストタウン交流事業」
７　中国・四国地区社会教育研究大会山口大会（１１月）＊１日目参加
８　第３回社会教育委員の会議の開催（３月予定）
　社会教育関係団体に関する新規登録審査、提案事業審査

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉
日常的な活動や研修を通し地域活動の実態や要望を掘り起こすことができた。
また、老朽化が進む社会教育施設の整備、全世代が参画、交流しやすい拠点づくりが急務である。

〈来年度の方向性〉
引き続き、現状把握と情報収集に努め、社会教育事業の活性化を図る。

真庭市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	３回
	２名	１名	２名	６名		１１名	任　期	４年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

〇	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
◎	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
	その他		

◇活動のテーマ・重点

〇多文化共生社会の推進について

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

近年、真庭市でも外国人住民が増加し、地域社会の多様化が進んでいる。真庭市の外国籍市民数は 2015 年の 217 人から 2025 年には 506 人へと 2 倍以上に増加しており、地域のすべての住民が互いを理解し、支え合う素地を育むうえで、社会教育の役割はますます重要になっている。こうした多文化の進展に対応するためには、行政施策のみならず、市民一人ひとりの学びと成長に基づく「共に生きる地域づくり」が不可欠である。社会教育活動を通じて異文化理解力や地域のコミュニティ力を高めることは、外国人住民にとって安心して暮らせる環境づくりにつながるだけでなく、日本人住民にとっても寛容で豊かな地域社会の形成に寄与する。これらの取り組みは、結果として地域全体の活力向上にもつながると考えられる。以上の観点から、私は多文化共生と社会教育のあり方について考察することとした。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　第１回社会教育委員会議（５月）

（１）令和６年度社会教育委員会議活動報告

（２）令和７年度事業計画



２　第２回社会教育委員会議（９月）

「外国人との交流が盛んな公民館の視察」

多文化共生に関する取組、外国人住民との交流事業、公民館運営の工夫等について学ぶ。

・視察先は、岡山市立福浜公民館・岡山市立御津公民館

・視察後の対応として、委員は視察の成果や気づきをまとめ、市へ「視察後の感想（レポート）」として提出する。



３　第３回社会教育委員会議（１２月）

「まにわ日本語教室代表者との情報交換会」

地域の外国人支援や日本語教育の現状、課題、今後の可能性等について意見交換する。

４　第４回社会教育委員会議（２月）

情報交換会「今年度の振り返り」年間を通じた取り組みを総括し、**成果と課題を整理するとともに、次年度の計画に向けた意見交換を行う。**

3 成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

これまで委員相互の協議を重ねるとともに、視察研修や日本語教室との情報交換を通じて、地域における多文化共生の在り方について多角的な検討を行ってきた。こうした取組を重ねる中で、外国人住民の心情に寄り添い、その立場や背景を理解しようとする姿勢の重要性について、委員間で改めて認識を共有することができた。

また、外国人学習者を支援する指導者からは、学習者から寄せられる「楽しい」「役に立った」といった肯定的な言葉が大きな励みとなっていることが示された。さらに、学習者が自身の希望や目標を達成した際には、指導者自身にも大きな達成感が生まれ、そのことが指導意欲の維持・向上につながっているという現状も理解するに至った。

一方で、課題も明らかになっている。第一に、真庭市における外国籍市民の基礎的情報が十分に把握されていない点である。なかでも、就労状況や居住環境、生活上の困難、支援ニーズといった支援施策の立案に不可欠な情報が不足しており、現行の支援が実態に十分反映されているとは言い難い。また、外国人住民が求める学習内容や生活支援の具体像を把握するための調査も十分に行われておらず、実情に即した支援メニューの構築にはなお課題が残されている。

〈来年度の方向性〉

今後の方向性としては、社会教育の理念を基盤に、公民館を中心とした学びと交流の場を一層充実させ、多文化共生の地域づくりを推進することが重要である。外国人住民の居住状況や生活課題、学習ニーズを継続的に把握し、その情報を公民館事業の企画に適切に反映させることで、より的確な支援が可能となる。具体的には、日本語学習の機会提供に加え、生活ルールや行政手続の理解を支援する場を整備し、地域で安心して生活できる環境づくりを進める必要がある。加えて、多言語表示や視覚的な案内、ガイダンスの工夫など、公民館運営における文化的配慮を強化することで、誰もが参加しやすい環境を整えることができる。また、ボランティアによる日本語支援や交流活動は、公民館における社会教育活動を支える重要な要素であり、行政による研修や活動環境の整備が求められる。さらに、マルシェや野菜市、交流カフェ、多文化フェスティバルなど、住民と外国人が自然に交流できる場を設けることは、相互理解の促進に大きく寄与する。加えて、受け入れ企業との懇談会を開催し、就労現場の課題を共有することも、公民館事業の改善に資するものである。

来年度は、「多文化共生社会における公民館の役割」を主題として掲げ、学びと交流を通した地域づくりをさらに深化させていく予定である。

美作市社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	３名		１名	８名	３名	１５名	任　期	２年

【社会教育委員として実施した活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
〇	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇地域の特色を生かした学びの支援

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

社会教育委員、家庭教育支援員、公民館職員を対象に、社会教育に不足する「日常性の関係」をテーマに研修・意見交換を行った。この内容等を踏まえて３月に委員会を開催し、市の持つ多様な課題の中から来年度調査・研究に取り組むテーマを決定する予定。３月の委員会では、部活移行についても担当課職員から説明を受ける予定にしている。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

従来行っていた「バレンタイン子ども絵画展」が「バレンタイン愛の美術展」に統合されたため従来行っていた応募作品の審査は行っていない。

本年度は研修や委員での討議を踏まえて、来年度取り組むテーマを決定するための期間としている。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

本年度は委員が改選となったため、社会教育委員の役割等についての研修を行った。また、委員以外の関係者も取り込んでの研修や意見交換を行った。

〈来年度の方向性〉

本年度の研修等を踏まえて３月の委員会で検討し、来年度のテーマを決定する。教育委員会からの諮問を受けなくても独自にテーマを決定し、課題を踏まえた視察や委員会での検討を重ねて、教育委員会に提言できるよう取り組む予定。

浅口市社会教育委員の会議

【基本情報】

	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
委員数	２名	６名	４名	３名		１５名	任　期	２年

【社会教育委員として実施した活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
◎	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇地域学校協働活動における社会教育委員としての役割

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

地域と学校の協働による課題解決の取り組みが進んでおり、社会教育委員に期待される役割を模索しているため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　第１回社会教育委員会議の開催（８月）

浅口市立金光公民館で開催し、社会教育関連の年間事業計画について意見交換を行った。また、会議後、同公民館で活動中の社会教育団体の活動状況を視察した。

２　「夏ＧＡＫＵサプリ」、「冬ＧＡＫＵミニサプリ」の視察

「夏ＧＡＫＵサプリ」は７月２２日～７月２５日の４日間、「冬ＧＡＫＵミニサプリ」は１２月２５日～２６日の２日間、学校と公民館、地域が協働で小学生の学習支援を行う事業であり、市内３公民館で実施している。地域ボランティアや学生ボランティアの活動に理解を深める機会となった。また、社会教育委員も講師として参加している。

３　第２回社会教育委員会議（３月）※予定

本年度の事業実績や次年度の計画等を協議する会議を開催予定で、会議終了後は、市内社会教育関連事業の視察を行う予定としている。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

「夏ＧＡＫＵサプリ」や「冬ＧＡＫＵミニサプリ」への参加や視察により、公民館活動への理解が進むとともに、異年齢交流に触れ、学校と公民館、地域への関わり方を考えるきっかけとなった。地域学校協働活動に関して、更に事業への関わり方を模索していく必要がある。

〈来年度の方向性〉

公民館活動や学校支援事業、地域活動へ積極的に参加し、引き続き社会教育委員としての関わり方を模索していく。

和気町社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	０回
	１名	６名		２名	４名	１３名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇地域や世代を超えた住民間の交流を促す社会教育事業の創出
〇社会教育施設の利用促進とさらなる利活用

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

町民の社会教育、社会体育活動の参加が年々減少している中、現在の町民のニーズに合わせた事業実施、施設利用法を検討するため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

令和７年度活動実績なし

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

３月に会議を開催する方向で検討していたが、４月の町長選挙後に町の方針等を踏まえたうえで、今後の社会教育の施策等について審議することとしたため、令和７年度において会議等の活動を実施することができていない。

〈次年度の方向性〉

今後の町の社会教育事業の方向性等について審議するための会議を開催し、その結果を今後の町の施策等に反映するように進めていきたい。

早島町社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	２名	４名	４名			１０名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
〇	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
◎	その他（　社会教育委員会の開催と町主要行事への助言）		

◇活動のテーマ・重点

〇町の主要行事や学校部活動の地域移行等の重点施策について協議研究を行う

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

早島町の社会教育については、限られたマンパワーを活用しながら、これまでの業務の見直しや効率化の必要性に迫られている。(株)ファジアーノ岡山スポーツクラブによる指定管理者制度に伴う施設管理の一元化、学校部活動の地域移行などの新規事業の状況を注視するほか、町の２大事業である夏まつりとスポーツフェスタの意義を鮮明にし、今後の方針について試行錯誤しながら協議・研究し、事業の形式や他の委員会等に反映させていくため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　**備中地区社会教育委員連絡協議会総会・研修会へ参加（５月）**
副委員長２名、事務局１名が参加した。

２　**岡山県社会教育委員連絡協議会総会・第１回研修会へ参加（６月）**
副委員長１名、事務局１名が参加した。

３　**早島町社会教育委員会議の開催（５月、１２月）**
町主要行事（備中はやしま夏まつり、スポーツフェスタ、生涯学習まつり、花ござピンポンチャンピオン大会、町民ソフトボール大会、二十歳の集い、マラソン駅伝大会）のあり方、指定管理者制度に伴う施設管理の一元化などについて協議・助言を行った。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

社会教育委員会議での協議内容を主要事業に反映させることができた。

〈来年度の方向性〉

歴史ある数々の事業について、その方向性と新しい形を引き続き研究・協議する。

指定管理者制度などの状況を注視し、必要な事項を協議する。

改訂が行われていない「早島町社会教育推進基本計画」について研究・協議を行い、改訂計画策定を行う。

社会教育委員の定義・職務を再確認する。

里庄町社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	３名	５名	１名	１名		１０名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
〇	その他（　生涯学習、スポーツ、文化振興等に関する助言・指導　）		

◇活動のテーマ・重点

〇人権尊重の精神に根ざした、心豊かで自立した人づくり（「里庄町教育大綱」基本理念より）
心豊かで生きがいを育む生涯学習の振興、やすらぎとうるおいを感じる芸術・文化の振興、歴史の保存、生涯にわたるスポーツの振興、異なる国や地域・人との交流活動の推進に関する研究・助言

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

町民が生涯を通して、具体的に学習機会を選択して学び、その成果を社会に生かしていくことができる「生涯学習によるまちづくり」の実現を目指し、いつでも、どこでも、誰もが学び、楽しみ、その成果が豊かな地域づくりに反映される生涯学習の推進を図るため。また、郷土に対する理解や愛着を深め、シビックプライドの醸成を図ること、更に、スポーツや芸術文化活動、伝統芸能等を通して多様な地域間交流を促し、地域社会の活性化を図るため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　第１回社会教育委員会議
　令和７年度の実施予定事業について意見聴取
２　第２回社会教育委員会議（３月）※予定
　令和７年度中に実施された社会教育関連事業について報告

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉
県等が主催の研修会に参加し、社会教育委員として期待される役割を理解するとともに、他市町村の委員や社会教育関係者と情報交換を行い、地域づくりや地域学校協働活動などに関する社会教育の役割について理解を深めた。

〈来年度の方向性〉
社会教育委員会議において、町の社会教育施策に対して意見交換や提言を行う。
社会教育関連事業や施設の視察などを取り入れながら、地域の課題把握や情報共有、委員同士の交流や意見交換の機会充実を図る。

矢掛町社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	５回
		４名	１名	２名		７名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
◎	調査研究・視察	〇	青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇社会教育の活動現場・研修等への積極的な参加
〇令和７年度教育行政重点施策（生涯学習・文化財・健康スポーツ）の事業評価

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

多岐に渡る社会教育分野において、委員自身に現場を訪れてもらい活動の熱量や空気感を感じ、そこで得た情報から課題を抽出し事業評価に繋げながら、次年度に向けてブラッシュアップを図っている。さらに、ウェルビーイングの向上につながる社会教育施策の実現に向け、相互の対話を重視している。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　公民館夏休み学習会の見学、Ｂ＆Ｇ海洋センターフィットネスルームの視察（７月）
※視察は平成２９年度から継続して実施
・小学生対象の長期休業期間中の公民館行事と今年度新たに開設されたフィットネスルームを見学。

２　矢掛町の社会教育活動　・研修会へ参加（個人参加の場合あり）
・やかげ中高生模擬議会　・二十歳のつどい・　やかげ音楽祭
・教育講演会　・夏休み学習会　・やかげ本陣文学賞　・本陣マラソン
・第４７回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会　等



３　教育委員との懇談会の開催（１月）
・矢掛町教育大綱の改正に向けた教育委員との意見交換。

４　令和７年度教育行政重点施策（生涯学習・文化財・健康スポーツ）の事業評価（３月）

〔個人の特色ある活動〕
当町では、様々な立場で積極的に活動している人材（放課後児童クラブ支援員・地域学校協働活動推進員・人権擁護委員・日本語教室・民生児童委員・音楽教室講師・講座関係者・地域ボランティア等）を委嘱しており、地域の状況に精通しているとともに、自ら社会教育活動を行っている。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉
委員自身が積極的に研修会や社会教育関係の行事に参加し、主体的に活動している。さらに、年間の会議数も多いことから活発な意見交換ができている。

〈来年度の方向性〉
引き続き、各種研修会や行事への参加を通じ、意見聴取を行う。

新庄村社会教育委員の会議

【基本情報】

	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
委員数	１名	３名			１名	５名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

〇	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
〇	その他（研修会、事業への参加）		

◇活動のテーマ・重点

〇生涯学習（英語学習）の充実
〇公民館事業（図書室・システム導入）の充実

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

当村では、外国人観光客が増加しており、生涯学習における英語学習が役立つと考えられるため。
公民館内に併設されている図書館の利用率が低水準で推移していることから、公民館事業を充実させることで図書室利用率の向上を図るため。
システム導入による利便性の向上。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　社会教育委員会の開催（６月）
テーマ「生涯学習・公民館事業について」に沿った議論を行った。

２　研修会等へ参加
・生涯学習村外研修会「自然保護」２日間（８月下旬土日）
・社会教育委員「人づくりまちづくり研修会」（６月・１１月）

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉
社会教育委員会における英語学習に関する議論により、中学校での英語学習機会（学校教育、社会教育ともに）の拡充などに繋がっている。【英語使用ホームステイ国内など】
ＡＬＴによる英語教室を開催しているので、興味がある大人は英語に触れるいい機会になっている。

〈来年度の方向性〉
公民館活動の周知を一層進める。
公民館・小中学校図書室の図書館システムの活用を進めていく。公民館及び小中学校において、図書システム利用の講習会や図書利用の啓発活動を行う。

鏡野町社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	２名	２名	１名	３名	６名	１４名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

〇	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
◎	その他（二十歳のメッセージ取り組み）		

◇活動のテーマ・重点

〇若者とのつながりを深める社会教育活動

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

人口減少・少子高齢化の深刻化により、人と人とのつながりや家族関係、近隣関係の重要性が再認識されている。このような状況の中、将来にわたって持続的に発展していける鏡野町を次世代につないでいくため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　鏡野町社会教育委員会の開催（５月、１０月）

２　二十歳を迎えた方へのメッセージとお守りを届ける取り組み（８月、１月）

・取り組み方法の見直しや改善を目的とした委員へのアンケートを実施した。

・アンケートの結果を基に、二十歳を迎えられた方々へ「夢や目標に向かって頑張ってほしい」と手書きのメッセージと手作りのお守りを贈った。

３　働く方々への街頭啓発活動（９月～１１月の間、計４回）

朝の通勤時間帯に合わせ、手作りののぼりを掲げ地元で働く人たちを応援した。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

〇委員の改選年度ということで、社会教育委員の役割や職務への理解を深めるため、各種研修会へ積極的に参加した。

〇社会教育委員会議でこれまでの活動の振り返りや今後の活動について意見交換を行った。

〇社会教育委員と教育委員のそれぞれの役割の理解や連携・協力する関係性が築けていない。

〈来年度の方向性〉

〇今までの活動を再点検し、引き続き取り組むべき活動、新たに取り組む活動について検討したい。

勝央町社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	３回
	１名	３名	２名	２名	６名	１４名	任期（２年目）	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

〇	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
〇	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
〇	その他（ワークショップ）		

◇活動のテーマ・重点

〇住民と行政の協働のまちづくり

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

令和２年度「協働」をキーワードに「社会教育委員」としてやりたいことを考え、その実施を目指してテーマを決定した。令和６・７年度は、同テーマの実現にむけて、各委員が興味関心のある事や気になっている事をより具体的に挙げ、委員どうしで協力して出来そうなことを検討。また、上手く利用して実施出来そうな既存の事業について担当職員より委員へ提案、一部実施した。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　勝央町社会教育委員会の開催（５月、１０月、３月※予定）

・社会教育委員の役割、取組みテーマについて協議
・令和６年度事業報告、令和７年度事業計画の説明と意見交換
・令和７年度事業中間報告、令和８年度重点事業の説明と意見交換
・令和７年度事業経過報告、令和８年度事業計画（案）の説明と意見交換
・公民館の利用について　（学習支援等について）
・第三の居場所について　（健康福祉部より具体的な説明を受ける）

２　中国・四国地区社会教育研究大会徳島大会へ参加（委員３名、事務局２名）（１１月）
３　人づくりまちづくり研修会①津山市（委員７名、事務局２名）（６月）
４　人づくりまちづくり研修会②津山市（委員１名、事務局１名）（１２月）
５　岡山県社会教育委員連絡協議会第２回 WEB 研修会（委員６名、事務局１名）（１０月）

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

例年実施している事業報告・事業計画（案）の説明時間を短縮し、研修報告や会議のテーマを設け、委員の主体性と参画意識を高めることができた。しかし、各委員による具体的なアクションを起こすまでには至っていない。

〈来年度の方向性〉

行政主導ではなく、各委員が主体性を持ち具体的なアクションを起こせるよう、「社会教育委員」としてより主体的な研修の実施やワークショップ、意見交換の場（時間）を設定し、やりたいこと、出来ることを引き出し、具体的な取り組みによる「協働によるまちづくり」を推進する。

奈義町社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	３回
		９名				９名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

〇	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
	調査研究・視察	〇	青少年教育に関する助言・指導
〇	その他（研修会への参加、事業の企画・運営協力）		

◇活動のテーマ・重点

〇委員の専門分野により３つの分会（生涯学習、スポーツ、美術館図書館）を設け、個々のスキルを活かした委員会運営を行う

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

各委員のスキルを活かし、様々な分野で情報提供や体験学習活動を行い、家庭教育支援の取り組みを推進するため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　奈義町社会教育委員会の開催（６月、９月、３月）

町の文化関係事業、スポーツ関係事業、美術館関係事業、図書館関係事業について協議

２　各分会の開催（随時）

生涯学習、スポーツ、美術館図書館

３　青少年健全育成推進の取り組み（７月、１１月、３月）

町の青少年健全育成の取り組みとして、委員が小中学生の登校時の挨拶運動を行った。

４　教育委員会が行う事業への協力

奈義町体力づくり町民運動会など、町の文化スポーツイベントの実行委員として、企画及び当日の運営の協力を行った。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

奈義町社会教育委員会及び分会を開催し、町の事業等について協議や意見交換を行うことが出来た。

町の実施する事業や、青少年健全育成の取り組みに参加することが出来た。

〈来年度の方向性〉

学校支援ボランティア、子育てトークワイワイ（親育ち応援学習プログラム）等への参加、また町内で活動されている団体や個人等について深く知る機会を創出したい。

各分野において活躍されている委員の能力を更に発揮できるような活動を行いたい。

西粟倉村社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	１名	２名			２名	５名	任　期	２年

【社会教育委員として実施した活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
◎	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇村内の情報共有
〇西粟倉村の今と昔の社会教育について

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

全国的に人口減少が進む中、比較的減少を緩やかに抑えられている西粟倉村であるが、人口約 1,300 のうち約２割をＩターン者が占める。Ｉターン者は増えるものの若者のＵターン者についてはごく少数であり課題となっていた。それがここにきてＵターン者が増えてきた。そのＵターンのきっかけの一つとして、体験活動の想い出やその活動を取り巻く環境に対しての印象がより濃く残っていたということから、昔と今の西粟倉村の社会教育について率直な意見を聴取し、今後の取組に活かすため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

Ｕターン者３名からざっくばらんに当時（Ｕターン者が学生の頃）の社会教育に関する想い出や村の現状についてヒアリングを行った。





３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

西粟倉村には社会教育を広げやすい地盤・環境があり、またその魅力がある。いろんなところで繋がりをつくることができる。その基盤を活かし「連携」することや絶対数が少ない中でそれぞれの受け皿が持つ「個性」を互いに干渉し奪い合うようなことがないように俯瞰的に調整・コーディネートしていくことが重要であることが確認できた。

〈来年度の方向性〉

現在村内で行われている社会教育の取組や社会教育に関連のある団体や取組などを再整理し、部活動の地域展開等の動きも加味した西粟倉村オリジナルの社会教育の在り方について取りまとめ、提言する。

久米南町社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	２回
	１名	７名				８名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
◎	その他（各種事業に参画し活動内容等を検証する）		

◇活動のテーマ・重点

〇社会教育委員の役割の理解
〇事業への参画

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

・社会教育委員の役割や活動について理解を深める必要があるため。
・多世代が共に学び合い、町民の力を活用した社会教育事業を行う必要があるため。
・ふるさと久米南を学び、郷土愛を育む必要があるため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　久米南町社会教育委員会議の開催（６月、３月）

２　事業の実施

「第９回ウォーキング大会」（１２月）　― 町スポーツ協会主催 ―
弓削（ゆげ） ⇒ 神目（こうめ） ⇒ 誕生寺（たんじょうじ） ⇒ 竜山（たつやま） の町内４地区を年度ごとに巡っている。
今年度は竜山地区で実施

町の魅力を歩いて感じるイベント、ウォーキング大会に参加。町スポーツ協会長は社会教育委員として活動している。

目的は、楽しく歩きながら、名所や歴史に触れることができるようにスポーツと文化の融合を図ること。約１０ｋｍのコースで目指すのは、清水寺（県指定重要文化財ほかに指定）。当日は、社会教育委員（文化協会長）と文化財保護委員が作成した資料等により詳しい説明を行い、参加者はまちの魅力を発見することができた。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

ウォーキング大会では、保育園や小中学校にもチラシの配付を行い、多くの親子連れの参加があった。地元の方も知らない名所や遺跡などについて、社会教育委員と文化財保護委員が詳しい説明を行うことにより、参加者は知識を深めるとともにまちの魅力を発見することができた。社会教育委員が関わり意見を出すことにより年々充実したイベントとなっている。

〈来年度の方向性〉

令和６年からコミュニティセンターが開設されているため、新規事業について引き続き協議を行う。

美咲町社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	３回
	１名	４名		２名	２名	９名	任　期	２年

【社会教育委員として実施した活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

〇	社会教育に関する諸計画の立案	◎	教育委員会への答申
〇	調査研究・視察		青少年教育に関する助言・指導
〇	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇美咲町生涯学習推進計画の内部評価
〇第四次美咲町教育振興基本計画の策定（令和８年度～令和１２年度）

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

・「美咲町生涯学習推進計画」（令和３年度～７年度）の実施にあたり、事務事業評価や施設利用・事業実施の状況について、生涯学習の視点から内部評価を行うことで、社会教育委員の役割としての教育委員会への助言を行うため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

１　美咲町生涯学習推進計画の内部評価・次期計画の策定
２　美咲町社会教育委員の会議開催（５月、９月、３月頃）
３　その他
・社会教育委員連絡協議会、研修会等へ積極的な参加。
・2025 年 10 月 20～21 日：大阪府岬町社会教育委員 5 名来町し、美咲町社会教育委員と交流を行う。
・2025 年 11 月 20～21 日：第 47 回中国四国地区社会教育研究大会山口大会へ、2 名参加
・2026 年 1 月 29 日：津山市社会教育委員 8 名来町し、美咲町社会教育委員と交流を行う。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉
研修会に積極的に参加・他自治体の社会教育委員との交流をすることで、社会教育委員として果たすべき役割を理解することができ、新たなつながりづくりとなった。

〈来年度の方向性〉
引き続き、社会教育委員の会議を開催する。
教育分野、生涯学習分野、生涯スポーツ分野を包括化する「第四次教育振興基本計画」について、意見交換、提言を行う。
新しく整備された生涯学習施設の説明や視察を活動に取り入れる。
社会教育委員の新たな担い手の育成。

吉備中央町社会教育委員の会議

【基本情報】

委員数	学校教育関係者	社会教育関係者	家庭教育関係者	学識経験者	その他	合　計	年間会議回数	１回
	１名	４名	２名	１名		８名	任　期	２年

【社会教育委員として行った活動】（あてはまる項目で重点的な活動に◎、その他行った活動に〇を記入）

〇	社会教育に関する諸計画の立案		教育委員会への答申
〇	調査研究・視察	〇	青少年教育に関する助言・指導
	その他（　　）		

◇活動のテーマ・重点

〇当町の家庭教育支援の現状把握と支援の方向性の検討

１　上記のテーマ設定の理由（市町村の社会教育の現状・課題等）

都市化や核家族化、地域における住民同士の交流のつながりの希薄化がすすむ中、育児不安やしつけへの自信喪失する家庭、孤立しがちな家庭が増加してきているため。

２　活動のテーマ・重点に向けた社会教育委員の活動

〔全体としての活動〕

１　第４７回全国公民館研究集会（東京大会）へ参加（１１月）
　公民館運営審議会委員として参加（兼務）

２　岡山県社会教育委員連絡協議会総会・第１回研修会へ参加（６月）

３　備前地区社会教育委員連絡協議会へ参加
　第１回備前地区社会教育委員連絡協議会理事会及び研修会（５月）
　第２回備前地区社会教育委員連絡協議会研修会（１０月：赤磐市）

４　吉備中央町社会教育委員会（３月開催予定）
　町社会教育事業及び施策に関する協議

〔個人としての活動〕

家庭教育支援チームを中心に、「親育ち応援学習プログラム」のファシリテーター養成講座を受講し、親プロファシリテーターとして活動している。町内健康づくり推進委員と連携しパパサロンの開催や、公民館文化祭にて親子交流コーナーへの出展など、普段交流のない保護者間の交流を推進し、吉備中央町ならではの社会課題に対する解決に取り組んだ。

３　成果と課題・来年度の方向性

〈成果と課題〉

家庭教育支援チームの一員として各種行事に参加し、認知度や信頼度が向上している。

親プロの際、保護者同士の交流の時間が、現在の社会教育や家庭教育の現状を把握する場ともなり、来年度の社会教育委員の活動のヒントになった。

令和７年度に小学校が統合し、学校を核とした地域協働活動とともに閉校小学校区域における学習環境の維持及び発展が今後新たな課題となることが予想される。社会教育委員の領域においても統一的に支援を行えないか、調査研究が必要である。

〈来年度の方向性〉

町社会教育事業及び各種施策について、事業目的の達成に向けて適切な事業内容の精査、事業効果を検証し、教育行政における課題解決に関する提言を行う。